

2021 年度

第 24 期大阪精神分析セミナーのご案内

—精神療法家・心理療法家のためのセミナー—

当セミナーでは、2021 年 9 月から 4 年を 1 クールとした新たなクールが始まります。1 年目となる第 24 期は、精神分析の創始者フロイトの文献を辿りながら、精神分析の基礎をじっくりと学んでいきたいと思えます。以下のようなプログラム（オンライン開催）を予定していますので、是非ご参加をご検討ください。

また、2 年目には精神分析の様々な学派の理論を学び、3 年目では現代の精神分析（的）臨床の実践に触れ、4 年目には精神医学や他領域と精神分析との関連について理解を深めていきたいと考えています。もちろん単年で参加していただくことも可能です。

*2019 年度（途中）まで午後に行っていました事例検討会につきましては、第 24 期からは別枠とし、少人数グループで開催する予定としています。講義（午前）のみ参加される方には、年に 2 回事例検討会にご参加いただける機会を設けました。

*当セミナーは日本精神分析学会認定研修グループです。2021 年 4 月現在、コロナ禍における特例措置として、2022 年 3 月末までオンラインによる系統講義及び事例検討会の開催が学会より認められています。それ以降もオンラインでの開催が認められるかどうかは未定です。もし認められない場合、第 24 回セミナーは、系統講義、事例検討会ともに学会認定研修グループの条件を満たさなくなりますことを、どうぞご了承ください。

2021 年 5 月吉日

主 催：大阪精神療法・心理療法研究会
代 表：横井公一
運営委員：片山貴美子・川野由子・宿谷仁美
清野百合・増尾徳行
運営顧問：大矢 大・館 直彦

お問い合わせ：大阪精神分析セミナー事務局 osaka.psy.an.seminar@gmail.com

受講申し込み：<https://www.oskps.com>



2021年度 第24期 プログラム

オンライン（zoom）による、午前、午後の2つのプログラムを予定しています。

1. 系統講義（午前）

テーマ：精神分析とは何か—フロイトの業績からその基礎を学ぶ

	日程	講師	講義テーマ
第1回	9月26日	松木邦裕先生	精神分析とはどのようなものか：フロイトの人となりと精神分析
第2回	10月24日	清野百合先生	無意識の発見：ヒステリー研究を読む
第3回	11月21日	飛谷 渉先生	夢解釈を学ぶ：症例「ドーラ」から現代的発展へ
第4回	1月23日	妙木浩之先生	エディプスコンプレックスと神経症：ドラやハンスを通して
第5回	2月27日	横井公一先生	フロイトの技法についての論文を読む
第6回	3月27日	増尾徳行先生	精神病へのアプローチ： シュレーバー、狼男、ナルシズム入門などを中心に
第7回	4月24日	十川幸司先生	自我のメカニズム：メタサイコロジーの論文を中心に
第8回	5月22日	館 直彦先生	不気味なものとは何か：フロイトの芸術論、文化論、文明批評
第9回	6月26日	北山 修先生	精神分析の終わりをめぐって： 快原則の彼岸、終わりなき精神分析などを中心に
第10回	7月31日	藤山直樹先生	オープンセミナー：スーパーヴィジョンを通して精神分析を学ぶ

*第1回（松木先生）と第10回（藤山先生）には、午後に事例検討会を予定しています。

各講義概要・課題図書

第1回 松木邦裕先生（日本精神分析協会 個人分析オフィス）

フロイトは精神分析の創始者ですが、フロイトが築いた基礎は精神分析臨床の基盤として、今日も揺るぎなく、私たちが学ぶに値するものであり続けています。その業績の実際をこれからの一年に皆様が学んでいかれます。この皮切りの講義では、フロイトという人、人生、そして精神分析での歩みを紹介いたします。

課題図書：フロイト, S: 精神分析入門 人文書院 フロイト著作集／新潮文庫／中公文庫プレミアム
フロイト入門 妙木浩之 ちくま新書 2014

第2回 清野百合先生（パークサイドこころの発達クリニック／個人開業）

フロイトが無意識を発見し自由連想法を発明したのは、何よりもまずヒステリー患者の治療に取り組むことを通してでした。本講義では、精神分析誕生の前夜とも言える時期の彼の臨床的奮闘とその考察が子細に記されている、ブロイアーとの共著『ヒステリー研究』を読み解きながら、その歴史的意義と今日的意義とを考えていきます。

課題図書：『ヒステリー研究』 S. フロイト著 フロイト著作集7 人文書院
『フロイトを読む』 J.M. キノドス著 岩崎学術出版社

第3回 飛谷渉先生（大阪教育大学保健センター）

夢解釈は、転移・逆転移の理解とともに精神分析臨床技法の中心を担います。本講の主眼は、分析的臨床における夢の使用を学ぶことです。「夢解釈は心の無意識的活性の知識へと至る王道である」というフロイトの箴言の意味を、症例「ドーラ」の素材を参照することで検討し、さらにクライン派のシーガルやピオンの業績にも触れ、夢解釈の現代的発展を跡づけます。心の無意識的側面について改めて考える機会となるよう企画しています。

課題図書・文献：「夢解釈Ⅰ・Ⅱ」フロイト全集 4・5 岩波書店

「あるヒステリー分析の断片（ドーラ）」フロイト全集 6 岩波書店

「精神分析たとえ話」第14、15話「夢の力Ⅰ・Ⅱ（イルマの注射の夢）」飛谷渉 誠信書房

‘Interpreting the function of dreams along with their content.’ In: Listening to Hanna Seagal: Her contribution to psychoanalysis. Ch. 7, Quinodoz. JM, Routledge. 2008

第4回 妙木浩之先生（南青山心理相談室／東京国際大学人間社会学部）

本講義では、フロイトの症例を通して、主にエディプスコンプレックスについて考察したいと思います。症例としてはドラ、ハンス、そしてねずみ男ぐらいでしょうか。自己愛についての議論によって、精神病が射程に入る前の、フロイトが考えていたことに接近できれば、と思っています。その後、この議論は超自我の議論へとつながっているので、その議論ともつなげて考えられたらと思っています。トーテムとタブーやモーゼ論の入り口まで到達できるなら、目標達成でしょう。

課題図書：「あるヒステリー患者の分析の断片」 S. フロイト著 フロイト著作集 5 人文書院

「ある五歳男児の恐怖症の分析」 S. フロイト著 フロイト著作集 5 人文書院 など

『メタサイコロジー論』 S. フロイト著 （十川幸司訳） 講談社学術文庫

参考文献：「フロイトの症例」吾妻ゆかり、妙木浩之（編） 現代のエスプリ 317, 1999年

第5回 横井公一先生（微風会 浜寺病院）

フロイトの一連の技法論文を読みます。フロイトの技法論は「ヒステリー研究（1895）」でフロイトが観察した現象を「性に関する3つの論文（1905）」で仮定した欲動の理論に基づいて治療を行うためにフロイトが実践した技法についての諸論文です。現代的な治療構造論の礎となったこれらの論文を、精神現象と欲動理論を背景に置きながらもう一度読み直します。

課題図書：フロイトの「Papers on technique. SE XII p. 83-173」あるいはその翻訳。

第6回 増尾徳行先生（ひょうごこころの医療センター）

フロイトによる精神病へのアプローチを理解するには、シュレーバーから始めるのが適切と思います。ただ現代の精神分析的な問題意識に至るには、ナルシズム論と合わせた理解が必要です。心的プロセスとして理解するとき、精神病とは、統合失調症などの精神疾患を抱える人に限らないからです。精神医学と精神分析は、はっきりと視点が異なります。私たちの臨床実践において、精神病が身近にあることを示せば、と思っています。

課題図書：

フロイト（1911/2009）「自伝的に記されたパラノイアの一症例に関する精神分析的考察」岩波書店

ボラス（2015/2017）「太陽が破裂するとき：統合失調症者の謎」創元社

第7回 十川幸司先生（十川精神分析オフィス）

フロイトは、精神分析理論が、単なる比喩や曖昧な心理学に陥らないように、基本概念を厳密に基礎づけることに細心の注意を払っていました。この基礎づけの試みは、彼の臨床経験の円熟とともに、変化していきます。本講義では、彼の精神分析理論の骨格とも呼べる 1915 年の『メタサイコロジー論』に焦点をあて、それが現代の臨床とどのような形でつながっているか、考えてみようと思います。

課題図書：『メタサイコロジー論』（S・フロイト、講談社学術文庫）

『精神分析の四基本概念』（上・下）（J・ラカン、岩波文庫）

第8回 館直彦先生（たちメンタルクリニック）

フロイトはとても文学的な人だったように私は思いますが、彼は精神分析を科学として確立しようと考えたために、自分の理論を補強するもの以外は、そういったものを避ける傾向が見られます。この講義では、不気味なものをとば口として、彼の芸術論・文化論・文明批評を概観し、それを通して精神分析理論の理解を深めることを目指します。

課題図書：

フロイト『不気味なもの』（いろいろな出版社）

ブレーガー『フロイトー視野の暗点』（里文出版）

第9回 北山修先生（北山精神分析室）

結局のところ、フロイトの精神分析体験とは何かを考えます。母と父、エスと超自我、生と死、快と不快、善と悪、音楽と医学などの相克を「私(自我)」がどう生きるか、つまり三角運動(あるいはエディプス・コンプレックス)なのであり、願望、不安、防衛と理解し「私は、、、したいが、、、が嫌で、、、として生きる」という形に束ねることもできます。それは統合できないからこそ、紡ぎ出すための「三つ巴」の運動が生まれるわけです。

課題図書：フロイト「快原則の彼岸」

北山修『精神分析理論と臨床』誠信書房 2001

第10回：オープンセミナー 藤山直樹先生（個人開業）

話題提供：片山貴美子先生（そうしん堂レディスメンタルクリニック）

宿谷仁美先生（あやめ池カウンセリングオフィス）

スーパービジョンは、患者やクライアントのためにあるのではないと思う。それはあくまで、セラピストの訓練の一部である。スーパービジョンがその素材となっているケースの進展をじゃましたり、混乱させることもあるだろう。そしてよいスーパービジョンには、よいセラピーがそうであるように、ある種の混乱がつきものである。それを前提として、スーパービジョンで起きることを考えてみたい。

課題図書：Ogden, T (2005) : On psychoanalytic supervision. Int J Psychoanal 86, 1265-1280

*第10回はオープンセミナーです。この回のみのご参加が可能です。

系統講義（午前）詳細

対 象：精神分析、精神分析的な精神療法・心理療法に関心をお持ちの医師（精神科医、心療内科医、小児科医など）、心理職（臨床心理士、公認心理師）及び、心理臨床を学んでいる大学院生で守秘義務を遵守できる方。

*本セミナーは、公益社団法人日本臨床心理士資格認定協会が定める臨床心理士資格の更新ポイント（定例型研修会）の申請予定です。

開催期間：2021年9月26日（日）～2022年7月31日（日）

10:00～12:30（第1回と第10回は13:30～16:00に事例検討会あり）

定 員：100名

申込方法：大阪精神分析セミナーホームページ（<https://www.oskps.com>）からお申込みください。

申込期限：2021年8月末日

第24期は開催後も参加申込みを受け付けています。但し、初回に参加されたい方は9月19日までにお申し込み下さい。

参加費：35,000円

一括全納でお振込みいただきます。振込先はお申し込み後にご連絡いたします。

*第10回オープンセミナーのみご参加の方は、4,500円です。申込期日等の詳細は追ってお知らせします。

2. 事例検討会（午後）※午前とは別枠になりますのでご注意ください。

	日程	講師
第1回	9月26日	松木邦裕先生
第2回	10月24日	清野百合先生
第3回	11月21日	飛谷 渉先生
第4回	1月23日	妙木浩之先生
第5回	2月27日	横井公一先生
第6回	3月27日	増尾德行先生
第7回	4月24日	十川幸司先生
第8回	5月22日	館 直彦先生
第9回	6月26日	中村留貴子先生
第10回	7月31日	藤山直樹先生

※少人数による事例検討会です。ただし第1回と第10回は午前の系統講義参加者と合同（大人数）になります。

※第9回は午前の講師（北山修先生）と異なり中村留貴子先生（千駄ヶ谷心理センター）となります。

※構造化された精神分析的心理療法の事例を提供できる方にご参加を限らせていただきます。

事例検討（午後）詳細

対 象：構造化された精神分析もしくは精神分析的な精神療法・心理療法の事例を提供できる方。

事例を提供されるご希望の回について、申込時にご記入いただきます。

※構造化された心理療法：頻度は週1回以上、面接時間は45分以上、寝椅子または対面法による面接（児童の場合はプレイセラピー）

開催時間：2021年9月26日（日）～2022年7月31日（日） 13:30～16:00

定 員：15名

申込方法：大阪精神分析セミナーホームページ（<https://www.oskps.com>）からお申込みください。

申込期限：2021年8月末日

参加費：35,000円

一括全納でお振込みいただきます。振込先はお申し込み後にご連絡いたします。

注意事項：※事例をご発表いただく回については先着順で決定します。ご希望に添えない場合がありますことをご了承ください。

※ご発表は、A4で6枚程度のレジюмеをご準備いただきますが、配布はせず口頭のみで行っていただきます。

※事例検討会では、参加中ビデオをオンにいただくことが必須となります。その状態を維持できない方はご参加いただけません。

来期も是非みなさまとともに学ぶ機会を持つことができましたら幸いです。

どうぞふるってご参加ください。